



いまから300年以上も前になりますが、江戸時代の儒学者^{ねん いじょう まえ}で地理学者でもあった長久保赤水^{ながくほ せきすい} (1717-1801) が、ここ常陸国多賀郡赤浜^{ひたちのくに たがごおりあかはま} (現在の茨城県高萩市^{いばらきけんたかはぎし}) で生まれました。

※孔子の思想をもとに、四書五経を^{しよごきやう きやうてん} 経典として政治・道徳の^{せいじ どうとく} 実践を^{じっせん} 教える^{おし} 人^{ひと}。

赤水^{せきすい} が35歳^{さい} ごろから^と 取り組みはじめた日本の^{ちづ} 地図づくりは、20数年^{すうねん} という年月^{としつき} をかけてできあがりました。そして59歳^{さい} のとき、柴野栗山^{しばのりつざん} が序文^{じよぶん} を書き、出版^{しゅつぱん} への準備^{じゅんび} がととのいました。



※「新刻日本輿地路程全図序」安永4 (1775) 年に書かれる。柴野栗山^{しばのりつざん} (1736-1807) は儒学者^{じゆがくしゃ} で、のちに寛政期^{かんせいき} の優れた^{すぐ} 学者^{がくしゃ} の一人^{ひとり} といわれました。